2019（H31・R1）年度

＜2019（H31）/4/1 - 2020（R2）/3/31＞

事業報告・活動計算書等

目　次

1　事業報告

（1）全　　体 …… 2p
（2）山口市市民活動支援センター「さぽらんて」…… 5p
（3）ほっとさろん中市「まちのえき」…… 25p
（4）こども明日花プロジェクト…… 28p

2　活動決算

（1）決算報告書 …… 36p
（2）各種内訳 …… 42p

特定非営利活動法人　山口せわやきネットワーク

■ 法 人 全 体 事 業 報 告 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成 15（2003）年 6 月 11 日に法人としてスタートし、15 年目となる平成 30（2018）年 5 月に税制上の優遇措置を受けられる認定格を取得しました。この制度をフルに活用し、令和元（2019）年度も 468 万円の寄付を集めることができました。平成 28（2016）年度から精力的に寄付を集め始め寄付総額は、1700 万円を越えました。今後もＮＰＯの柔軟性や機動力を生かして、市民を巻き込みながら誰もが幸せに暮らせる地域社会に一層貢献していきたと考えます。

事業においては、設立のきっかけともなった、**山口市市民活動支援センターさぽらんて**の運営（山口市委託)、高齢者等交流施設**ほっとさろん中市まちのえき**の運営（山口市委託）とも安定した事業展開をしています。平成 28（2016）年度にスタートした**こども明日花プロジェクト**は、総額 1,900 万円余りの事業費の内、450 万円余りの寄付を集めて、委託、助成、寄付と多様な財源確保で運営しています。協力ボランティアも増え、子ども食堂など取組みやすいテーマで地域へも広がりを見せています。

今年度は、新型コロナウィルスの蔓延により、さぽらんて、まちのえきは３月５日より３月２６日まで休館、こども明日花では学習会、居場所、子ども食堂を中止し、宅食サービスを実施するなどの影響が出ました。今後も各事業とも職員の安全を優先しながら、事業成果に向けて工夫が必要だと感じています。

17 年目が終了し、今後も市民組織らしい、巻き込みと多様な財源確保ができる組織づくりを目指していきます。

１　会　議

（１）総会

①通常総会

〇日　　時：５月２７日（月）18：00～20：00

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出席者数：正会員 11 名（内、書面表決出席 6 名)、監事１名、職員１名

〇内　　容：平成 30（2018）年度事業報告・収支決算、監査報告

平成 31（2019）年度事業計画・活動予算

②臨時総会

〇日　　時：１２月２４日（火）18：00～18：30

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇表決者数：正会員１３名（内書面表決１１名）

〇内　　容：委託料概算払い(こども明日花事業)に伴う日本政策金融公庫よりつつなぎ資金の借入

（２）理事会

①第１回

〇日　　時：４月２７日（土）16：00～18：30

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出 席 者：理事 3 名　職員１名

〇内　　容：＜報告＞平成 31（2019）年度活動予算、職員体制

＜協議＞平成 30（2018）年度事業報告、補正・収支決算、総会等

②第２回

〇日　　時：１２月３日（火）18：00～20：00

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出 席 者：理事３名

〇内　　容：＜報告＞平成 31・令和元（2019）年度事業経過報告　明日花資金繰り等について

③第３回

〇日　　時：２月２１日（金）18：00～20：00

〇場　　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

〇出 席 者：理事３名　職員１名

〇内　　容：＜報告＞平成 31・令和元（2019）年度事業経過報告　決算見込みについて

＜協議＞平成 31・令和元（2019）年度補正予算・決算見込み

令和 2（2020）年度事業計画及び活動予算

賛助会員導入について（ホームページについて）

（３）監　査

〇日　時：5 月 14 日（火）18：00～19：30

〇場　所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

２　事　業

（１）山口市市民活動支援センター「さぽらんて」に関する事業　≪定款事業①②③≫

〇平成 31・令和元年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の６機能をベースとして事業実施。９月２６日より、リニューアルして新拠点で業務開始。１２月１５日にリニューアルオープンイベントを実施した。

新型コロナウィルス拡散防止のため３月５日から２６日まで休館。職員は業務に空間を確保し、映像づくりやＺｏｏｍを活用して今後の支援強化に備えた。

〇山口市市民活動支援センター環境整備事業＜山口市（協働推進課）委託事業＞

（２）ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業　≪定款事業①≫

〇平成 31・令和元年度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能とし、特に本年度は、「店頭でも交流が図れるように」を主要テーマに事業を展開しました。新型コロナウィルス拡散防止に伴い３月５日から２６日までは休館。

（３）こども明日花プロジェクトに関する事業≪定款事業②③≫　　※＜＞は財源

〇学習支援　＜山口市委託・WAM 子ども未来応援基金・寄付＞

〇居場所づくり　＜山口市委託・寄付＞

〇地域コーディネーター養成研修　＜周南市委託＞

〇ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）＜WAM 子ども未来応援基金＞
〇情報発信・啓発　＜WAM 子ども未来応援基金・やまぐち子ども子育て応援ファンド＞
〇子ども交流体験キャンプ　＜子どもゆめ基金＞
〇ヤングワーカー（若き担い手）育成　＜河村財団＞
〇小郡中朝ごはん　＜山口子ども・子育てファンド＞
〇資金調達　委託、助成金のほか共同募金、企業、一般などから 4,465,190 円の寄付。
ファンドレイザーチームによるドネーションパーティーの開催。

新型コロナウィルス拡散防止のため、３月の学習会、居場所、こども食堂は中止し、週２回の宅食サービスを実施。

（４）その他の市民活動≪定款事業①②≫

①ホームページ新設

当法人としてのホームページを新設　https://yamaguchi-sewayaki.com/

各事業の紹介と賛助会員募集（カード決済可）

②講師等派遣

ア．行政等会議の出席

〇山口県県民活動審議会等　４回　渡邉洋子

イ．講師派遣（法人派遣事業）

〇山口市地域づくりアドバイザー派遣　４回　渡邉洋子他 2 名

≪認定ＮＰＯ法人山口せわやきネットワーク定款抜粋≫

【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う

①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業

②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業

③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業

④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

■山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告■

Ⅰ　2019 年度さぽらんて事業報告　ダイジェスト版

気軽に相談できる雰囲気を大切にした相談支援を基本に、市民活動団体の大きな課題となっている人材不足、資金不足の課題を解決するための市民への啓発と寄付も含めたボランティアの参加に向けて、「市民活動の意義を伝える」「市民活動団体に寄り添う」「幅広いネットワークを生かしてつなぐ」支援を展開。基本的事業となる相談や講座以外の特徴的な支援は以下のとおり。

リニューアルオープンイベント　集まれ！NEW さぽらんて

参加者
1,905名
ドネーション額
200,600 円

旧拠点が立ち退きのため、9 月 26 日（木）より、新拠点(同じく商店街 20m南側)での市民活動支援業務となった。リニューアルを記念して 12 月 5 日に「集まれ！NEW さぽらんて」を開催。オープニングでは、ドネーション（寄付）パーティーにエントリーした 6 団体の映像や学生発表（学生の巻き込みの展望）を行った。ドネーション額は 10 日余りの募集期間で 200,600 円が集まり、得票数に応じて団体に配分した。団体ブースには 11 団体（2 地域団体含む）の参加があり、団体 PR やバザーで賑わった。15 メートルの「巻き込み寿司」にもたくさんの参加者があり、当日の入館者は 1,900 人余りとなった。

寄付に親しんでもらうために 200 円という気軽なドネーションチケットは効果的であったと思う。今後も志を込めた寄付の流れにアプローチをかけていきたい。

若者の社会貢献の機会提供・ボランティアコーディネート

学生インターンシップ・ボランティア数
45 名
のべ
1,071 時間

2019 年度もたくさんの学生がインターンシップやボランティアで登録団体との関わりを持った。その他にも学生ならではの視点を生かした地域での企画実施、団体映像づくり、学生発表を行った。

①ちょうちん祭りでの東日本支援バザー　9 名×6H
②インターンシップ推進協議会からの受入れ　2 名×40H
③県立大学国際文化学科からの受入れ　13 名×60H
④大内コドモジカンプロジェクト運営　7 名×6H
⑤「集まれ！ＮＥＷさぽらんて」運営　7 名×8H
⑥市民活動団体紹介ＶＴＲ制作　3 名×15H
⑦さぽカフェ（学生×ボランティア・円卓会議）4 名×2H、3 名×2H

前向きな学生のインターンシップやボランティアは団体にも高評であり、今後も活躍の場をコーディネートする必要性を感じた。学生の中には、地域とつながりたい、何かできることがあればしてみたいという貢献意欲はあるが、その活動の場や情報がないということがわかった。今後はインスタグラムも立ち上げ、学生たちのボランティア活動の場を広げていきたい。

市民活動へのきっかけづくり

ええやん新聞発行数
30,000 部
90 秒動画作成
6 本

平成 31 年度山口市まちづくりアンケートによると、市民活動やボランティア活動（ＮＰＯ活動）を行っている市民の割合は全体の 11.4%と少ないものの、「以前やっていた（10.1%）」「機会があればやってみたい（34.9%）」との回答は合わせると 45.0%で、市民活動予備軍ともえいえる潜在市民は半数近くいることが推測される。身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、この層の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加･参画のきっかけを創出するきっかけを提供。

①気軽に入れる雰囲気づくり：交流スペースが広くなったのでチラシを判りやすく分類し、気軽に情報が集められるレイアウトに。

②「ええやん新聞」20・21 号の発行：主なターゲット子育て世代（小・中学校全戸、地域回覧等 30,000 部発行）。

③市民からの相談対応数：２３３件。1/10 件はボランティアしたいという相談。

④インスタグラムの立ち上げ：新たな人材の巻き込みとして、学生をターゲットにして学生による発信で運営。

⑤動画作成、：「集まれ！ＮＥＷさぽらんて」でのドネーション集めのために 90 秒 PR 動画を 6 本（6 団体）作成。youtube にアップし、どこでも気軽に市民活動に触れてもらえるようにした。

今後も、「一歩踏み出すときにはさぽらんて」と思ってもらえるように気軽な雰囲気、共に考える姿勢で市民・市民活動団体に寄り添っていきたい。また、気軽な交流の場「さぽ lunch 会」も継続していく予定。

山口市に主な事務所を置く NPO 法人のリアル

寄付金合計
1,515 万円
合計収入
14.9 億円

山口市内に主な事務所を置く 80 法人中、事業報告が未公開の 20 法人（令和 2 年 3 月末現在内閣府ﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄに公開されていない NPO 法人）のうち収入ゼロの 1 法人を除いた 59 法人の寄付金合計額は、15,157,504 円。寄付金収入のない NPO 法人は 35 法人。寄付金額が 100 万円を超えるのは 5 法人。認定 NPO 法人については、寄付金はすべて 100 万円を超えている。

59 法人の収入合計額は、1,498,432,896 円と前年より 1000 万円上回った。介護サービスや委託などの事業収益が全体の 9 割近くを占め、会費、寄付金、補助金が全体に占める割合はそれぞれ 1%とわずか。

また、提出されている報告書も 25 法人（42%）が 1 ページのみとなっているほか、平成 28 年の NPO 法改正により、平成 30 年 10 月 1 日より公告義務のある貸借対照表について公告している NPO 法人は 8 法人と留まっている。

これらを踏まえ、支援者・応援者との双方向の関係作りに向けて、わかりやすく、親しみやすい情報発信、信頼性の向上のための情報開示の支援をしていくとともに、安定した運営に向けて、多様な財源確保・寄付収入へのチャレンジを促していきたい。

リモートワークの活用：３月に新型コロナウィルス拡散防止のため閉館を余儀なくされ、相談対応のみの期間が 1 か月近くあった。今後は Zoom などの活用促進にも力を入れて、状況の変化に応じて対応できるリモートワークや動画発信の体制を整え、相談や支援、ネットワークやチームづくりに生かしていきたい。

Ⅱ　委託契約に基づく事業報告（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

【基本目標】

「個性豊かで　活力のある　自立した地域社会」に向けて

①市民の市民活動への参画を促進すること

②ＮＰＯの活動基盤の強化、ＮＰＯの自立を促進すること（公共を担う団体の育成）

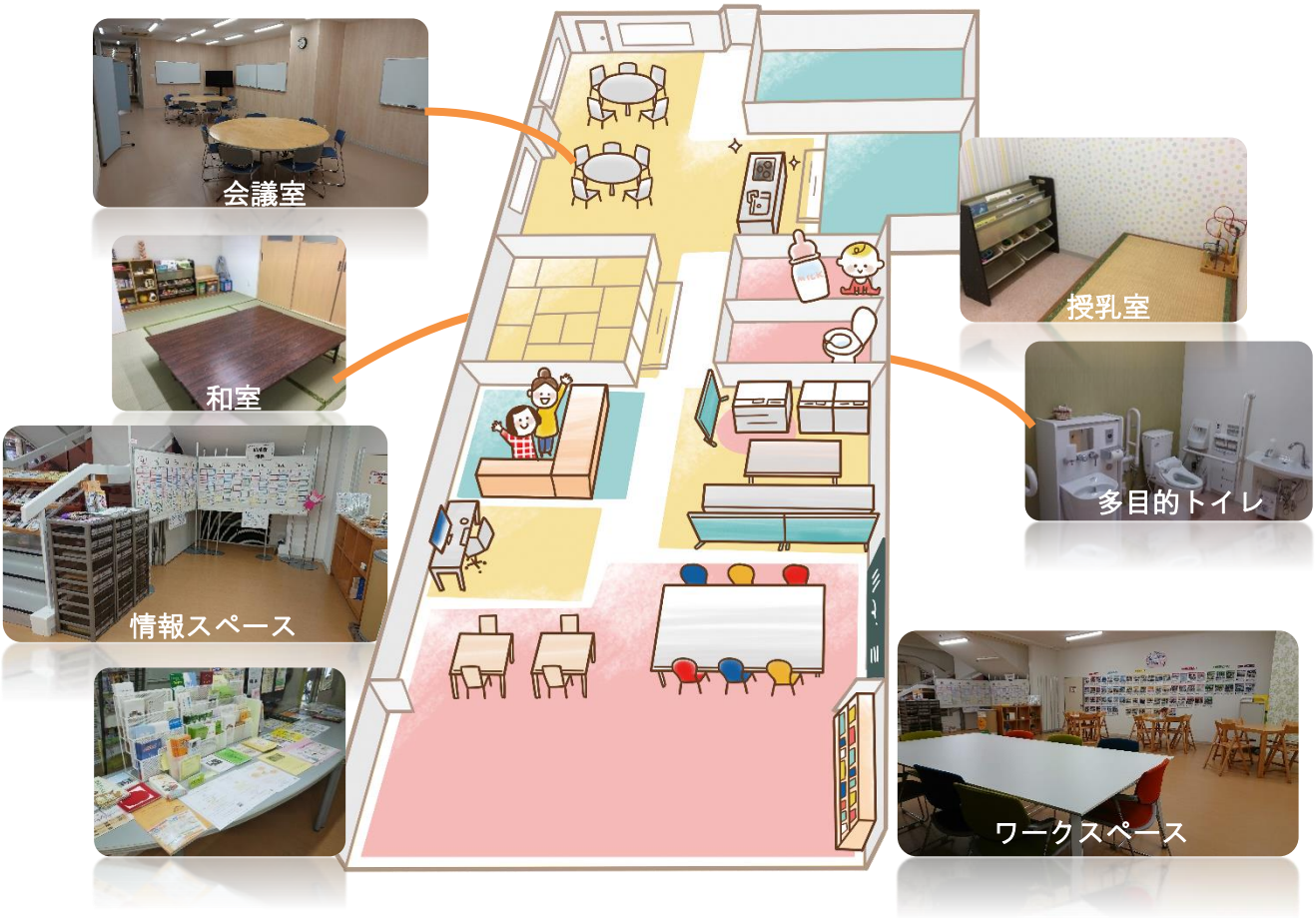
③広くＮＰＯ・地域コミュニティ・企業・行政とのパートナーシップを図り協働によるまちづくりを推進すること

上記を基本目標に契約書・仕様書に基づき「施設管理機能」「普及・啓発及び情報収集・提供機能」「相談機能」「人材発掘・養成機能」「協働促進・ネットワーク機能」「事務局支援機能」別に以下のとおり実施。

1　施設管理

今年度は、山口市がリニューアル移転を行い９月２６日(木)より新拠点で運営。交流スペースが従来の 1.5 倍程度広くなったので、各コーナー設置が可能となり、一般市民の目線も意識したレイアウトとした。

【リニューアルさぽらんて館内】



【対象別エリア】

〇市民の自由な情報交差点（展示・交流スペース）

〇団体の自由な活動形態を応援（会議室・和室・ワークスペース等）

〇気軽に相談できる場（総合受付スペース）

交流スペースに常時２名の職員を配置し、気軽に相談できる雰囲気を大切に、登録団体との情報交換や市民の一歩を応援する相談対応を心掛けた。

（１）開 館 日

水曜日及び年末年始（12／29～1／3）、祝日を除いた日を基本の開館日としているが、新型コロナウィルスの拡散防止のため閉館の指示を受け 3/5～3/26 を閉館とし、相談業務のみの対応とした。

開　館　日　数：２７６日
相談のみ対応日数：　１９日（新型コロナウィルス拡散防止対策のため）
完 全 閉 館 日 数：　７１日

（２）開館時間

９：３０～１８：００
※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤
登録団体の時間外利用は　柔軟に対応

（３）各種手続き書類の配置

①市民活動団体向け

- □登録市民活動団体への提供サービスのしおり
- □市民活動団体登録・変更用紙
- □会議利用報告書
- □ブログ反映機能申請書
- □印刷機利用カード
- □機材借用書（貸出）
- □持込みイベント申込書・報告書
- □インターネット使用簿
- □窓口業務依頼申請書
- □学生ボランティア依頼書

②内部用

- □相談カード
- □機材貸出予約簿
- □拠点利用予約簿
- □日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）
- □職員業務日報

2　普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。商店街にある拠点を活用し団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、一部地域への回覧とした。

講座など事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、「円卓会議」や「集まれ！NEW さぽらんて」などイベント実施後はかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

（１）市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報…団体ごとの個別ファイルを作成。
②ＮＰＯ支援情報…全国の支援情報や NPO 関連図書を配置。
③市外の市民活動情報…全国の支援センターや NPO の情報を配置。
④助成金情報…年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。
年間のスケジュールや、募集中の助成金ラックを設置し、団体が助成金を探しやすい工夫をした。

（２）広報紙等の発行

１年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかわら版を発行し支援内容を伝える他、団体が人材不足の課題を抱えているため、市民向けの啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。

①さぽらんて事業情報

〇さぽらんての平成 30 年度の事業報告ダイジェスト版

〇さぽらんての令和 2 年度の事業方針及び事業一覧

〇さぽらんてかわら版

ア．さぽカフェかわら版　～ボランティア×若者　善意とニーズを確実につなぐために～

イ．さぽらんてかわら版　～集まれ！NEW さぽらんて～

②助成金情報

ア．さぽらんてからのおいしい助成金情報の発行

イ．助成金情報メールマガジン

③活動インフォメーション

④ええやん新聞

身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、この層の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【発行内容】

・発行回数：年 2 回（9 月末／2 月初）

・発行部数：20 号…32,000 部、21 号…30,000 部

・対　　象：市民（主に子育て世代を想定）

・配 布 先：市内公立幼育園、小・中学校、21 地域交流センター、子育てひろば、山口市全地域回覧、他関係各所、20 号は子ども食堂で増刷配布。

【特集内容・テーマ】

2019 年度はええやん記者やモニター、アンケートなどからの声を受け、地域・子ども食堂、寄付という身近にあるがよく知らない、知れば一歩踏み出せる社会貢献について発信。

＜20 号＞特集：すべての大人と子どもが集える食堂

＜21 号＞特集：寄付でつなぐ みんなの未来

【成　果】　市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

20 号

項　　目	%
より身近に市民活動を感じた(理解･関心が高まった)	28
社会課題(特集内容)ついて考えるきっかけ、共感につながった	23
情報提供を活用	4
はじめの一歩につながる勇気、元気、やる気につながった	17
さぽらんての周知につながった	7
その他	21

「地域・子ども食堂」というタイムリーな話題に、市民からの反応が大きいように感じたそして、これまでより「これなら自分にもできる」という感覚が芽生えた人も多かったようで、一歩踏み出そう、踏み出したという人の声があった。中でも、子ども食堂でボランティア側として参加してみたいという

意見も多数あった。また、新しくなったさぽらんてにも寄ってみたいという声もあったので、さぽらんての周知、利用が増えるきっかけづくりになったのではないだろうか。

21 号

項　　目	%
より身近に市民活動を感じた(理解･関心が高まった)	18
社会課題(特集内容)ついて考えるきっかけ、共感につながった	37
情報提供を活用	0
はじめの一歩につながる勇気、元気、やる気につながった	22
さぽらんての周知につながった	0
その他	23

認定 NPO 法人への寄付やドネーションなど少し難しく専門的な内容も含まれていたが「それ以上に仕組みを知れてよかった」「詳しく知れたのでやってみようと思う」などの意見があり、寄付を知るいい機会を提供できたのではないかと思う。一方、クラウドファンディングについてはインターネット経由だったり専門用語を使うためか、ハードルが高く感じたという意見があった。

■今後に向けて

新しい視点とモニター会議で改善点に挙げられていた読みやすさを追求し「文字を読む時間が取れない人にも、後から読める情報紙」を目指した工夫を加え、大幅に紙面を改善した。社会課題が自分事になり、どうやったら記事が読みやすく伝わりやすいか、どんな内容を載せたら活動の良さが伝わるかなどを市民スタッフと共に考え紙面づくりを行いたい。

（３）ホームページ

大きな変更はしていないが、ワードプレスや各種ブログの仕様変更に随時対応できるように RSS 機能（登録した他のサイトの情報は取得する機能）を充実中。

■アクセス数は、21,341 件（58 件/日)。実人数 14,286 人。

①まちサポ広場（電子図書館）の市民活動団体利用

登録団体（311）の基本データは全て掲載。

	2019 年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度	H27 年度
利用団体数	311	311	307	297	301
更新団体数	42	52	52	64	53
年間記事数	1,561	1,362	1,766	1,982	1,467

②ホームページ等での情報発信

お知らせ：１９件　　講座等レポート：９件　さ　ぽろぐ（ﾌﾞﾛｸﾞ）31 件　　Facebook：58 件

（４）情報交流コーナーの活用（「さぽらんて」前面フロア）

①市民活動紹介コーナー:団体紹介ミニポスターを作成し掲示。

②助　成　金　コ　ー　ナ　ー：展示場所を前面に出し PR。

③ＮＰＯ法人情報コーナー：ＮＰＯ法人格取得に向けて情報などを設置し、掲示がマンネリ化しないようにレイアウトを随時変更するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。

（５）マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを行い、団体の活動が新聞記事や TV ニュースにも取り上げられた。

（６）市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」を日頃来館する機会の少ない市民に向け、外部会場に展示する事で、団体情報の提供および、市民活動啓発になると考え開催。転入出時期に市役所ロビーで展示を行うことで、新たに山口市民のなった人へ、まちづくりへの意識向上や参加へのきっかけを促し、また市民活動への理解を深めてもらうことが狙い。

【展示内容】

・さぽらんて広報紙等(ええやん新聞、さぽらんて事業報告･事業予定、コドモジカンかわら版など)
・登録団体活動紹介ミニポスター60 団体
・団体パンフレット 27 団体
・不登校児童、保護者への支援を行っている「HappyEducation」の展示
・発達障害啓発週間（４月２日～８日）

【展示場所】

開催日：平成 30 年 3 月 14 日(木)～4 月 4 日(木)
場　所：山口市役所ロビー

３　相　談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、寄り添い支援を基本に必要な場合は専門家と連携し対応していった。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数以上を占め、個人の活動への相談対応や、市民活動団体との橋渡しも行った。

（１）相談・問い合せへの対応

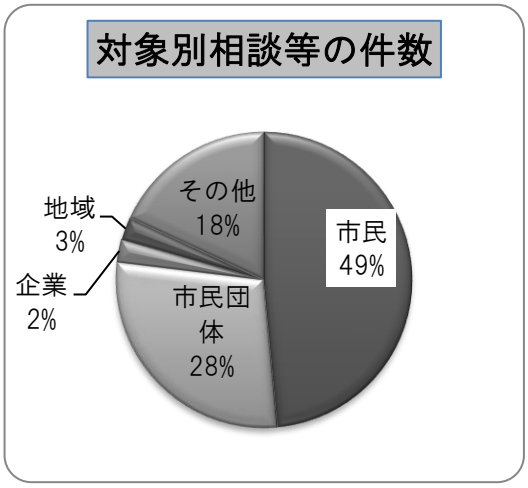
市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面･電話･メールによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

〇相　談　件　数　　５３８件　（来所　340 件、　電話 198 件）
〇問い合せ件数　　１６４件　（来所　103 件、　電話 61 件）

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は 463 件（グラフ集計総数）

【対象別相談内訳】

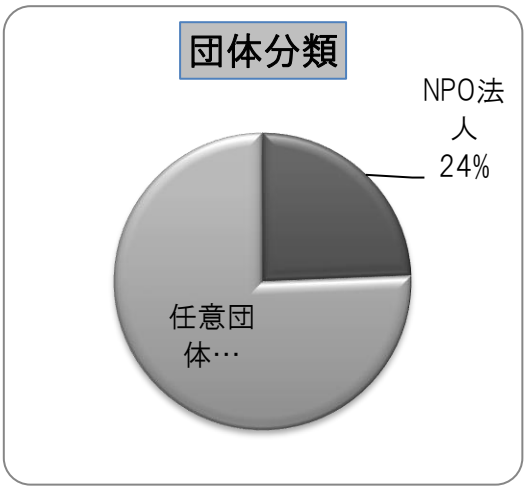
対　象	件　数
市民	233
市民団体	119
地域	12
企業	12
その他	98
合　計	463



相談件数、内訳割合ともに横ばい。メディアに取り上げられる団体が複数あり、市外からの問い合わせが増えた。地域からは、情報発信、団体マッチングに関するものが主。企業からの相談はこれまでのつながりや紹介によるものが大半。

【団体からの相談内容種類別内訳】

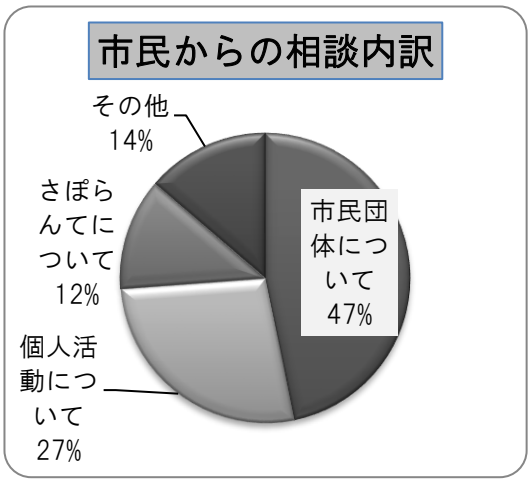
団体分類	内容	件数	
ＮＰＯ法人	運営	10	29
	活動	19	
	その他	0	
任意団体	運営	10	90
	活動	80	
	その他	0	
	合　計	119	119



法人からの相談件数は昨年度より倍増。事務処理に関すること、他団体やボランティアとのマッチングの要望が特に多かった。任意団体からの相談は、立ち上げや助成金、情報発信等で継続・伴奏支援を必要とするものが目立った。

【市民からの相談内容内訳】

内　　容	件数
個人的活動について	63
さぽらんてについて	29
市民団体について	109
その他	32
合　計	233



（２）相談・問い合せの内容の一覧化

市民からの相談の 10 件に 1 件がボランティアを希望するもので、昨年の 2 倍に。市報掲載後の反響が特に大きかった。移転にともない、さぽらんてに関する問合せや初来館の市民が増えた。犬猫の相談は依然として多いが、これまで大半だった譲渡や引き取りに関するものから徐々に TNR に関するものに推移している。

4　人材発掘・養成

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続的活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて、講座、研修、伴走支援等を行った。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

（１）講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講　師	参加者
1	NPO 入門	5/25 9:30-12	さぽらんてセンター長 渡邉　洋子	4 団体 8 名
2	バーチャルボードミーティング（仮想理事会）	5/25 13-16	仮想理事 井野口房雄氏他４名	2 団体 5 名
3	映像講座及び映像制作	6/28 9:30-12	渕上　正義氏	5 団体 22 名
4	LINE 活用！情報発進戦略講座	2/25 9:30-12:30	千々松　葉子氏	9 団体 12 名

1. NPO 入門では、法人格取得に伴う法人事務（会社経営と同様）の重要さは理解されたが、そのための資金や人材をどうクリアするかが課題という意見があった。
2. バーチャルボードミーティングでは、外部の刺激的な意見をもらい、団体経営の視点の必要性を痛感した様子。
3. 映像講座にでは、スタッフ（学生スタッフ含む）が４か月伴走し９０秒の動画を６本作成。改めて団体のビジョン・ミッションの共有ができたとの声があった。その後も団体 PR ツールとしてフル活用されている。
4. ＬＩＮＥ活用講座では、SNS の利用状況は変化が著しく、都度動向を意識しながら情報発信を強化する必要性があるため開催。まだまだこの波に乗れない団体も多数ある。

※その他、ポップ講座、ファンドレイジング勉強会を企画したが、新型コロナウィルス拡散防止の指示を受け延期（次年度開催）にした。

（２）市民活動団体への運営支援

任意団体、NPO 法人含めた寄り添い支援やこれから立ち上げる団体への支援に力を入れた。

①運営支援　（おでかけさぽらんて）32 回

日時	内　容	団体種類	スタッフ
2019/4/22	事業計画書作成サポート	任意団体	3 名
2019/5/7	同業他団体へのヒアリング同行	任意団体	1 名
2019/5/7	事業計画書作成サポート	任意団体	1 名
2019/5/10	事業計画書作成サポート	任意団体	1 名
2019/6/10	山口県立大学 SW 演習Ⅰ 「喪失を体験した人のへの支援について考える①」サポート	任意団体	1 名
2019/6/10	総会立ち合い・アドバイス	任意団体	1 名
2019/6/17	山口県立大学 SW 演習Ⅰ 「喪失を体験した人のへの支援について考える②」サポート	任意団体	1 名
2019/7/1	プレゼン資料作成サポート	任意団体	1 名
2019/7/22	「中山間地域づくり実践者のつどい」におけるグラフィックレコード	NPO 法人	1 名
2019/7/30	団体紹介 VTR 作成ヒアリング	NPO 法人	2 名
2019/8/2	団体紹介 VTR 作成支援	任意団体	1 名
2019/8/20	団体紹介 VTR 作成支援	NPO 法人	1 名
2019/8/22	映像制作打ち合わせ・専門家同行（1 回目）	NPO 法人	1 名
2019/8/22	ブログ作成支援	NPO 法人	1 名
2019/8/30	プレゼン資料作成サポート	任意団体	1 名
2019/9/2	ブログ作成支援	NPO 法人	1 名
2019/10/4	トイトイ拠点活用 WS	NPO 法人	1 名
2019/10/4	映像制作打ち合わせ（2 回目）	NPO 法人	1 名
2019/10/7	映像制作打ち合わせ（2 回）	任意団体	1 名
2019/10/21	映像制作打ち合わせ（2 回）	任意団体	2 名
2019/10/26	きらめき賞授賞式（推薦団体受賞に同席）	任意団体	1 名
2019/10/27	団体紹介 VTR 制作・専門家同行	任意団体	1 名
2020/1/11	団体立ち上げ支援	任意団体	1 名

2020/2/13	会則作成サポート	任意団体	１名
2020/2/18	立ち上げ支援	任意団体	２名
2020/2/21	ブログ作成サポート	任意団体	１名
2020/2/21	宮野地区防災情報交換座談会参加	任意団体	１名
2020/3/3	設立総会（進行・議事録）	任意団体	２名
2020/3/12	会則見直しの相談について	任意団体	２名
2020/3/17	助成金申請書作成サポート	任意団体	２名
2020/3/24	助成金申請書作成サポート	任意団体	２名
2020/3/27	団体立ち上げ支援　ビジョン等整理	任意団体	１名

②アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」などの推薦を行った。

（３）企業×ＮＰＯのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

５年目を迎えて、閉業した個人事業主の方があったものの、それぞれＮＰＯと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【2019 年度実績】

寄　付　金　総　額　　１６９，２００円

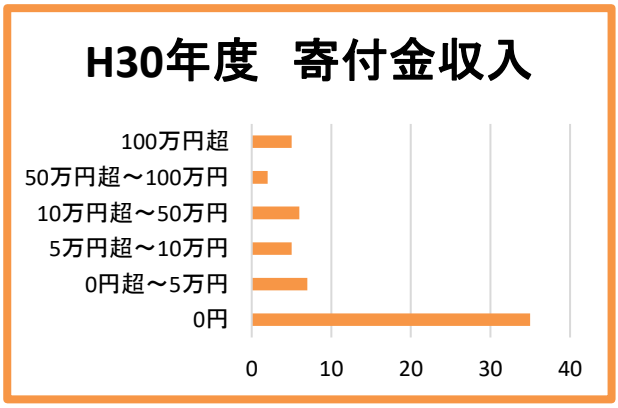
５年間の寄付総額　　１，３８６，２２６円

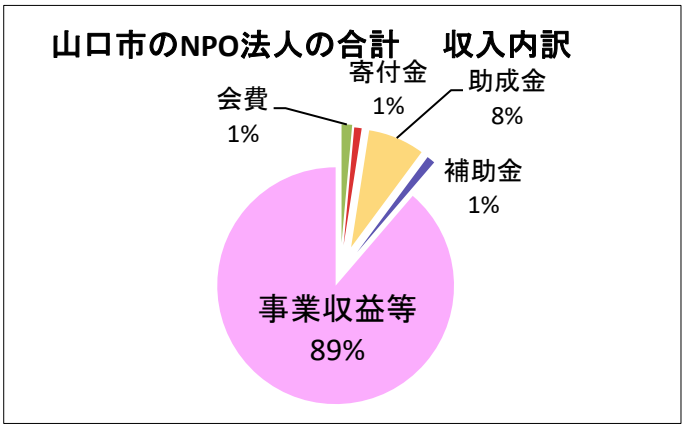
エントリーＮＰＯ法人：①認定ＮＰＯ法人こどもステーション山口
②認定ＮＰＯ法人支えてねットワーク
③ＮＰＯ法人あっと

協　力　企　業：①　（株）メルシー
②　木のおもちゃ専門店　リンドヴルム
③　ポーラ Sweet
④　（有）寿司やす
⑤　yogaroom　BUGEN 華
⑥　（株）モリイケ
⑦　（有）ＢＡＹ　ＴＯＫＹＯ

その他の連携：ＮＰＯ法人山口せわやきネットワークへの「こどもの貧困対策連携企業」提携企業３社、自動販売機設置企業４社。

【参考】山口市内の NPO 法人のリアル





山口市内に主な事業所を置く NPO 法人８０法人についての調査。平成２８年の改正 NPO 法に基づく公告義務を果たしている NPO 法人は８法人に留まり、

今後指導の必要性がある。

寄付金のないNPO法人が35団体と半数以上を占める。年間100万円以上の寄付金収入のある団体は5法人にとどまっている。収入については、介護サービスや委託などの事業収集が90%を占め、寄付金については1%にとどまり、多様な財源確保には程遠い現状がある。

（４）若者の社会貢献の機会提供およびボランティアコーディネート事業

社会貢献意欲のある学生と市民活動団体とつなぎ、社会課題や社会貢献の意義に触れる機会と参加の場を提供するとともに、双方が共通の目的・目標をもって社会課題解決に向け、活動できるようコーディネートを行なった。

日　時：８月７日（１５時半～２１時半）※予定していた６日は台風のため祭りが中止

場　所：さぽらんて

内　容：①オリエンテーション

団体から：被災地の現状・課題、活動のきっかけ、活動目的・内容、今後の展望など

学生から：参加の動機、団体への質問など

この他、持ち込みイベントで同会場にいた３団体との、交流タイムを設けた。

②山口市伝統まつり山口七夕ちょうちん祭りの設営（ちょうちんの火入れ）体験。

③チャリティポップコーン販売

売上目標を設定し、調理、販売、呼び込み等役割分担を決める。

売り上げの全てを東日本復興支援の活動費としてりす会山口および山口災害救援へ寄付する。

参加者：りす会山口（あらいぐま作戦in山口）および山口災害救援　４名

学生ボランティア　９名　さぽらんて　５名

その他協力：山口の街並を着物で歩こう会（浴衣レンタル、着付け）１名

チャリティ売上金額：42,400円　（※全てをりす会の活動費へ）

実施ポイント：イベント開始前に、参加者全員でオリエンテーションとミーティングを兼ねた食事会を行いチームとしての交流を深めるとともに、団体より被災地の現状や、活動への思いなどを語ってもらい、目的を共有した。

今　後：りす会、山口災害救援は、今もなお継続し、慰問、写真洗浄など復興に向けて切れ目のない支援にあたっている。被災地の状況や被災者の生の声を知るこのような団体の存在は大変貴重で、若者に社会貢献の意義を伝えるのに大変有効である。参加した学生からは「自分が行なったことが西日本災害の助けになる」「復興支援に少しでも協力できているという嬉しさがあった」とボランティア活動を通して、被災地に思いを寄せるきっかけとなっただけでなく、人の役に立つことへの喜びを感じる声が聞かれた。今後も、チャリティ屋台に限らず、ボランティアやインターンシップの学生へ社会貢献の場を市民活動団体の協力のもと、提供していく。

（５）インターンシッププログラム

山口県インターンシップ推進協議会や、県立大学の「地域学習」の中で学生の受け入れ、さぽらんてに直接登録した学生など合わせて19名の学生を受入れた。

■推進協議会からの受け入れ(2名、5日間)

〇学　　生　山口大学人文学部3年(男子)、山口県立大学社会福祉学部2年(女子)

〇期　　間　令和元年8月22日(木)～令和元年8月27日(火)

■山口県立大学国際文化学科（担当吉本教授）からの受け入れ（13名）

〇内　容

①全体オリエンテーション：（7 月 21 日）

②団体実習：6 団体の中から 1 つ選び、各自計 5 日間程度実習

③活動報告パネル作成

④全体ふりかえり・報告会

〇期　　間　7 月後半～11 月後半（大学前期日程）

〇受入団体　Happy Education、こども明日花プロジェクト、りす会山口、認定 NPO 法人こどもステーション山口、NPO 法人あっと、認定 NPO 法人支えてねットワーク

■令和元年度さぽらんて登録インターン（有償）スタッフ（4名）

〇内容

①大内コドモジカンプロジェクト企画・運営

②「集まれ！NEW さぽらんて」運営

③市民活動団体紹介 VTR 制作

④さぽカフェ（円卓会議）参加※別途報告

振り返り：

〇インターンシップ推進協議会を通してさぽらんてにインターンシップに来た学生のうち 1 名が、インターン期間終了後も実習先の 2 団体でボランティア活動を継続、またさぽらんて事業へも参加してくれた。来年度はさぽらんて学生スタッフとして活動することとなった。

〇受け入れ団体からは、例年通り高評を得た。一人一団体訪問にしたことで学生の入れ替わりがなかったことで「任せられる」「コミュニケーションがスムーズ」という点が特に喜ばれた。

〇「実習＝単位」として参加する学生の中には、社会貢献への意欲やモチベーションが保てないためか、もしくは自身の抱える問題のため、最終日まで実習を全うすることができないものもいた。

5　協働促進・ネットワークに関する業務

（1）大内コドモジカンプロジェクト（4 年目）

コドモジカンプロジェクトは①地域の宝である子ども達に、より豊かなコドモジカンが過ごせるように遊びと学びを備えた居場所を提供すること、②地域で子どもを見守る取り組みをきっかけに地域コミュニティが活性化することを目指して実施。開始当初は、長期休みの子どもの居場所を掲げて（主に①）行ってきたが、2 年 3 年とやっていくうちに、②の地域で子どもを見守る取り組みをきかっけに地域コミュニティが活性化するという方向に変化してきた。

また、さぽらんてとしては、学生スタッフに企画運営で関わってもらうことによって、学生の人材育成の場の一つとして位置付けている。

【内　容】

今年度は、大内氷上地区に　さぽらんて学生スタッフ　3 名、ボランティア学生　4 名の　計 7 人の学生が企画、準備、運営に関わった。

■氷上地区（自治会中心）

①8 月 8 日（木）・8 月 9 日（金）

氷上寺子屋（宿題教室、絵画教室、消しゴムハンコ、学生お楽しみ企画、夢パフェ作り）参加児童　のべ 80 人

②12 月 29 日（日）餅つき大会　参加者　20 人

■中村自治会

①6 月 29 日（土）　農業体験（サツマイモの苗植え）　30 人

②11 月 2 日（土）　収穫祭（サツマイモ）・料理教室（於：合同ガス）　36 人

③12 月 23 日（月）　餅つき・試食会　24 人　　延べ 90 人

■上千坊町内会

①6 月 15 日（土）　サツマイモの苗植え　25 人

②7 月 31 日（水）　草刈り等　19 人

③10 月 26 日（土）　サツマイモ収穫　28 人

④12 月 8 日（日）　防災用品(マスク･エプロン･食器)作成、非常食調理・試食、サツマイモ試食　36 名　延べ 108 人

■小野自治会

①7 月 25 日（木）　宿題やっちゃおう、けん玉、ワイルドサンド調理・試食

②8 月 9 日（金）　釣り、竹細工、簡単お菓子作り等、チャレンジ防災非常食

③8 月 10 日（土）　かまどご飯・カレー作り、自由研究、かき氷等　　延べ 120 人

■茅野神田自治会（青年団）

①1 月 12 日（日）　櫻木神社境内にてどんど焼き（神社行事）・もちつき　総勢 39 人

【実施のポイント】

・中学生ボランティアを、自治会で募った。

・学生スタッフにコドモジカンの実施運営をしてもらった。

・氷上の子どもたちも交えての企画会議を行った。

【振り返り】

大内でのコドモジカンも 4 年目を迎え、現在　5 地区でそれぞれの形で継続して実施されている。

来年度も、5 地区が、実施の方向で話が進んでおり、安定を見せている。大内まちづくり協議会もコドモジカンの実施主体が、単年で役員が変わる子供会では長続きしないということが、この 4 年間の積み重ねから見えてきたようで、新しく参戦する地域には、コドモジカンの趣旨をよく理解したコアメンバーがいることが必須だということを併せて勧めているようだ。

学生スタッフが 7 名参加で、地区の方には大変喜ばれた。学生も本番に向けて自主的に何度も打ち合わせを行っていた。

（２）さぽカフェ（開催２回・成果発表１回）

本企画は、どうしたらボランティアの需要と供給を確実につなげるか、ミスマッチをなくしていけるかについて、ボランティアを募集している団体とボランティアを活用している団体、そして担い手として期待される若者の意見を取り入れながらそれぞれの意見と経験談を話しあってもらうことにより、改善の糸口を見出しよりよいボランティアのマッチングに資することを期待するものである。

第 1 回『ボランティア活動を続けるうえで必要なもの』

日　　時：2019 年 11 月 7 日（木）10：00～12：00

会　　場：さぽらんて会議室

参加人数：13 名

参 加 者：3 団体 4 名、支援者 4 機関 5 名、学生 4 名

内　　容：●さぽカフェのテーマ・趣旨説明

●自己紹介（所属団体と名前、ボランティア活動歴など）

●ふせんワーク『ボランティア活動でのテンション UP＆DOWN 経験』

●ワークショップ
●まとめ

第２回 『ボランティアが集まらない理由』

日　　時：2019 年 11 月 21 日（木）10：00～12：00
会　　場：さぽらんて会議室
参加人数：12 名
参 加 者：4 団体 5 名、支援者 3 機関 4 名、学生 3 名
内　　容：●前回のワークの振り返り
●ボランティアに関して抱えている課題について説明（2 団体）
●2 グループに分かれてのグループワーク
テーマ「ボランティア不足を解決する具体的な戦略を考えよう」
●グループ発表
●まとめ

「集まれ！NEW さぽらんて」での学生発表

日　　時：2019 年 12 月 15 日（日）10：00～10：30
内　　容：セレモニーの一環として、さぽカフェで出た意見をまとめ、パワーポイントで説明しながらボランティアとしての学生の活用に関する提言を発表。
（詳細は「集まれ NEW！さぽらんて」を参照）
発 表 者：山口大学 4 年　髙田隼平氏
上記の内容をまとめたかわら版を発行

（３）小鯖未来カタリバワーク

① 未来カフェ等打合せ

ア．6 月 20 日（木）　小鯖地域交流センター
イ．2 月 28 日（金）　小鯖地域交流センター
ウ．3 月 9 日（月）　小鯖地域交流センター
参加者：小鯖地域担当：松本、地域づくり協議会：木村、岩田
さ ぽ ら ん て：小田・幸徳・渡邉

② 未来カフェ～おさばのカタリバ　イイネするからつぶやいて～

日　時：6 月 23 日（日）9：30-12：00
参加者：小鯖地域：25 名（関係者含む）
さぽらんて：3 名　計 28 名
背　景：地域づくりに若い世代の声を反映させたいと考えている地域づくり協議会事務局の発案で実施。
目　的：若い世代へのさばろっち未来カフェの認知度向上。これまで着目されていなかった子育て世代の課題を表出させる。新たな関わりを生み出し、今後の活動への参加参画、連携へとつなげる。

（４）さぽらんてリニューアルイベント「集まれ！NEW さぽらんて」

目　的：9 月の拠点移動によりリニューアルしたさぽらんてのお披露目
市民活動団体と地域の交流の場を提供し新しいネットワークづくりを促進する
「寄付」という形の社会貢献を身近に感じてもらう
開催日：令和元年　12 月 15 日（日）10 時～16 時
場　所：山口市市民活動支援センター　さぽらんて　新拠点
対　象：市民団体、市民活動に興味がある市民
内　容：**①ドネーションパーティー**

エントリーした 6 団体が、団体ＰＲ動画や、パネルを作成し団体紹介をする。参加者は 200 円の寄付でチケット 1 枚を購入し、8 団体の中から応援したい団体を選んで投票。ドネーションパーティー当日に結果発表しエントリー団体に集まった寄付を配分。

寄付金総額：200,600 円

【エントリー団体への配分内訳】

団体名	票数	金額
①認定 NPO 法人 支えてねットワーク	109 票	33,800
② ブルーライトやまぐち	121 票	36,200
③ NPO 法人 あっと	123 票	36,600
④ こども明日花プロジェクト	84 票	28,800
⑤ 認定 NPO 法人 こどもステーション山口	114 票	34,800
⑥ 林業女子会@山口	92 票	30,400
①～⑥計	643 票	
団体指定なし	225 票	
合計	868 票	200,600

② 団体ブース

団体ブース又は展示 9 団体＋地域ブース 2 団体

団体ブースと地域ブースを設け交流を持ちながら各ブースでバザー、展示等を実施。

③ 「巻き込み寿司」

ドネーションチケットを持っている方には、長さ 15 メートルの巻きずしを一緒に巻いて食べることのできる特典付き。寄付をすることで、団体を応援する事と巻き寿司を巻いて食べられるという仕組み。

④ 学生発表

12 月 15 日イベント当日に行う式典で、さぽらんて学生スタッフのこれまでの取り組みを発表する。

⑤ 団体 PR 動画作成・放映

「映像講座」で、各団体に動機付けをしてもらい、さぽらんてスタッフ、学生インターンスタッフが伴走支援を行い、９０秒の PR 動画を６本制作し、Youtube のさぽらんてチャンネルで発信。

また、昼休み休憩時間に、市役所や県庁で映像を流した。

（5）その他地域づくり関連事業

①地域セミナー等協力事業

地域向けセミナー等に１６回にのべ４３名参加・協力

日付	内　容	主催	参加者数
2019/6/7	やまぐち草莽塾　OB 会	山口市 協働推進課	２名
2020/6/17	やまぐち草莽塾　事前打ち合わせ		２名
2020/7/20	やまぐち草莽塾　事前打ち合わせ　2 回		２名
2019/8/20	自治会ちぃとがんばっちょること語る会		２名

2019/9/12	やまぐち草莽塾①　地域づくりコーディネーター養成講座～ファシリテーションの基本①～		４名
2019/10/3	やまぐち草莽塾②　ファシリテーションの基礎②		４名
2019/10/17	やまぐち草莽塾③地域円卓会議でのファシリテーション実践		４名
2019/11/7	やまぐち草莽塾④地域の現状分析と実態把握		４名
2019/12/12	やまぐち草莽塾⑤地域行事、イベント、事業の評価と整理		４名
2020/1/21	やまぐち草莽塾⑥地域づくり計画の策定		４名
2020/2/20	やまぐち草莽塾⑦成果発表会		４名
2019/7/12	第５回あとう防災・減災講演会『備える』を忘れない	阿東防災減災講演会実行委員会	２名
2019/8/19	単位自治会長交流会 阿東	山口市	２名
2019/9/28	多世代交流・健康増進拠点施設整備に係る WS1 回目	山口市	１名
2019/10/26	多世代交流・健康増進拠点施設整備に係る WS2 回目	山口市	１名
2019/10/29	暮らしに合った移動の仕組みワークショップ	地福地域づくり協議会	１名

②地域訪問等

スタッフ４名が７回のべ１３名訪問

日付	内　容	地域	参加者数
2019/4/25	FB ページ作成支援	白石地域づくり協議会	１名
2019/5/17	FB ページとブログ連携支援	秋穂二島地区連合自治会	１名
2019/5/20	FB ページとブログ連携支援	秋穂二島地区連合自治会	１名
2019/6/20	小鯖カタリバ打ち合わせ	小鯖地域交流センター	３名
2019/6/23	さばろっちカタリバ～イイネするからつぶやいて～	小鯖地域交流センター	３名
2019/10/29	暮らしに合った移動の仕組みワークショップ	地福地域づくり協議会	１名
2020/3/9	小鯖未来茶屋打ち合わせ	小鯖地域交流センター	３名

（６）その他のネットワーク

団体の主体性を尊重し合い、有機的な効果を生み出すための自発的なネットワークへの環境づくりを心がけ、また、今年度は団体からの申し出で気軽な交流「さぽ lunch 会」を開催。今後も、市民･団体･地域･支援者の気軽な交流を促進したい。

①　さぽ lunch 会

2020/2/7　12-14　気軽な交流を望む団体からの申し出で開催。

市民４名、団体７名、支援者４名、さぽスタッフ６名　合計２１名参加

②　関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議】

日付	会議名	主　催	場　所	参加者
2019/5/23	県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	パルトピアやまぐち	2名

※３月開催予定が新型コロナウィルス拡散防止により中止

【審議会等】

日付	会議名	主　催	場　所	参加者
2019/5/27	シニア社会参加等意識調査検討会	山口県	山口県庁	1名
2019/9/2	山口県県民活動審議会	山口県	山口県庁	1名
2019/10/7	シニア社会参加等意識調査検討会	山口県	山口県庁	1名

【その他】

日付	会議名	主　催	場　所	参加者
2019/6/10	JTNPO 助成事業助成金交付式	日本たばこ産業株式会社	山口グランドホテル	2名
2020/1/14	(仮称)まちづくり関係者連携の場	山口市	ショクバ2階	1名
2020/2/13	(仮称)まちづくり関係者連携の場	山口市	ショクバ2階	1名

6　市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

（１）市民活動団体登録制度の運用

○２０１９年度末　登 録 団 体 数：３１１団体　（前年度３１１団体）

＜ＮＰＯ法人４４（内認定 NPO 法人 4）団体、

その他の法人５団体、任意団体２６２団体＞

新規登録団体数：　８団体

解 散 団 体 数：　８団体

（２）登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

○団体ＢＯＸ利用

要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：１９団体

○印刷機材の提供

利 用 件 数：１６６件

利用団体数：　３９団体

○会議室の提供

利 用 件 数：２５７件

利用団体数：　３４団体

○市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利 用 件 数：３４件（延べ利用日数８６日）

利用団体数：９団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：３０件

③広報支援

○「さぽらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぽらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：３６団体（偶数月発送作業）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

〇ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた、団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事カレンダーに反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：１６８件

□ワイヤレスマイク一式	４件	□マルチプロジェクター	３８件
□スクリーン	２７件	□パネル	１５件
□イーゼル	２６件	□長机	１５件
□延長コード	１８件		
□イス	９件	□その他	１６件

7　その他の事業

（1）館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぽらんてでは寄付やカンパを募り、東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額　４３，８５５円

寄　付　先　①りす会山口

②福島～山口いのちの会

③山口災害救援

上記団体に１４，０００円ずつの配分

Ⅲ　運　営

1　職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めた。毎月の職員ミーティングにおいて、事業企画や課題への意見交換を行い、支援力を磨き、多様な団体支援に対応できる体制を整えた。また、ローテーション勤務により平日については４～６名、休祭日については２～３名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館１時間前の９時から対応した。

〇事業スタッフ６名（常勤２名非常勤５名中１名学生）、広報スタッフ２名、学生スタッフ９名（インターンスタッフ含む）

〇ボランティアコーディネーション力３級取得者５名配置

＜NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会認定＞

2　意見聴取

「さぽらんて」への意見･要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

〇市民活動団体来所時及び相談対応時においての意見の聞き取り。

〇「さぽらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。

〇講座開催時の参加者アンケートによる把握。

〇ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。
〇団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。
〇インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識の掘り下げ。

3　定例連絡会等

「さぽらんて」設置者の山口市協働推進課と運営ＮＰＯ職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施においてのスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。このほかにも、９月２３・２４日の引っ越しに向けての打合せを随時行った。また、リニューアルイベント「集まれ！NEW さぽらんて」開催に向けて、寄付集めに向けても随時打合せを実施した。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内　容	担当課	さぽらんて
4/15	年間事業の関わりについて	2名	5名
5/10	年間事業スケジュールについて	2 名	6 名
7/8	移転について	2名	6名

4　職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。参加講座・研修 28 回

２月９日に実施されたボランティアコーディネーション力３級検定においては、スタッフ５名が合格。

➢ **研修等一覧**

① 運営支援のための講座・研修等　（２１回のべ６０名参加）

日時	内　容	主催	場所	参加者
2019/4/23	中間支援者の強みワーク	SANY	山口県民活動支援センター講座室	4名
2019/4/23	強み発掘ワークショップ	山口県民活動支援センター	パルトピアやまぐち	4 名
2019/5/12	山口こども応援ミーティング 2019	山口こども応援ミーティング 2019 実行委員会	山口県立大学北キャンパス	3 名
2019/5/20	ソーシャルビジネス連続セミナー ソーシャルビジネス概論	山口県	パルトピアやまぐち	1 名
2019/8/27	人や組織を動かす 調べるチカラ	山口県	パルトピアやまぐち	4名
2019/8/27	人や組織を動かす調べるチカラ 課題状況の把握の仕方、調べ方の講義	SANY	パルトピアやまぐち	6 名
2019/8/29	非営利組織のネット活用意見交換会	県民ネット	パルトピアやまぐち	3 名
2019/9/3	人や組織を動かす 調べるチカラ	山口県	パルトピアやまぐち	4名

2019/9/19	助成金の活用5つのポイント 非営利組織のための第三者組織評価のすすめ	やまぐち県民活動支援センター	セミナーパーク	1 名
2019/10/19	SPトランプセミナー	県民ネット	周南市徳山駅前賑わい交流施設	2 名
2019/10/24	ロジのチカラ UP 講座 フォロー意見交換会(導入・操作編)	県民ネット	パルトピアやまぐち	1 名
2019/11/15	ボランティア体験説明会	山口県	山口大学	1名
2019/11/16	セミナー「ボランティアとのコミュニケーション術」@宇部	山口県	男女共同参画センターフォー・ユー	1名
2019/11/29	kintone 活用講座	山口県民活動支援センター	パルトピアやまぐち	5 名
2019/12/2	あっと児童クラブにおける寄付の教室®	NPO 法人あっと	マルシェ中市	2 名
2019/12/8	第 2 回山口県ボランティア交流大会	山口県	山口県立大学2号館	2名
2020/1/20	企業と NPO の協働推進マッチングフォーラム	山口県	周南市学び・交流プラザ	2 名
2020/2/6	カタルタ体験会	さぽらんて	さぽらんて	6 名
2020/2/8	みんなの助成金セミナー	山口きらめき財団	山口県立山口図書館レクチャールーム	1 名
2020/2/9	ボランティアコーディネーション力 3 級検定及び事前研修	県民ネット	県立大学	5 名
2020/3/19	災害支援ネットワークづくりのためのオンライン視聴＆意見交換会	山口県民活動支援センター	ZOOM 参加	2 名

③地域づくりや個別のテーマの研修等（7 回１４名参加）

日時	内　容	主催	場所	参加者
2019/4/26	中間支援組織・支援センター役職員向け合同研修会～災害同時多発・少子高齢化加速時代の支援者が備えるべきスキルとノウハウを鍛える～	中国 5 県中間支援組織連絡協議会	岡山県総合福祉ボランティア NPO 会館「きらめきプラザ」	2名
2019/5/13	明日の障害福祉を考える会	明日の障害福祉を考える会	山口県身体障害者福祉センター	2名
2019/5/31	みんなの集落研究所　阿部典子氏　研修会	さぽらんて	さぽらんて	5 名
2020/11/7	企業と NPO の連携「こどもの未来応援企業として」池田建設	NPO 法人山口せわやきネットワーク	パルトピア	1 名
2020/2/12	コミュニティ学習会～地域課題のワガコト化と住民自治組織の変革の進め方～	山口県民活動支援センター	周南市徳山駅前賑わい交流施設交流室	1名
2020/2/14	令和元年度中山間地域活性交流会 中山間地域づくり収穫のつどい	山口県	山口県社会福祉会館	1 名
2020/3/23	全住民アンケート事前勉強会	山口県民活動支援センター	ZOOM 参加	2 名

■～ほっとさろん中市「まちのえき」～　事業報告■

＜高齢者等交流施設運営業務　山口市高齢福祉課：委託事業＞

平成１５年４月２０日、市民の交流の場となる施設【ほっとさろん中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成１５～１８年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成１９～２４年度は「“ひと”と“まち”をつなぐ」をテーマに、そして平成２５年度からは高齢者同士の交流を主テーマとして事業展開を図りました。

特に本年度は、「店頭でも交流が図れるように」を主要テーマに事業を展開しました。

１　施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

〇開館時間　１０：００～１６：００

〇休　館　日　水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始

〇施設及び備品類の管理

〇利用者統計　令和元年度（平成 31 年度）利用状況参照

２　休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気の提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

〇お茶の提供

〇フリーマーケット in まちのえき

人と人とのつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。（月１回）

また、普段利用される方々に、準備と後片付けの協力をしてもらいました。延べ５９名（実人数４名）

３　健康相談（まちの保健室）

（１）開室日時　施設開館日の１０：００～１６：００

（休室時間１２：００～１３：００）

（２）実施体制　保健師又は看護師が１日１人の当番制で行いました。

（３）会　議

対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました（年４回）。

（４）利用状況　令和元年度（平成 31 年度）利用状況参照

４　情　報

（１）「まちのえき」リーフレット令和元年度版の発行（８０５部）

（２）ウェブサイトの管理・運営（http://www.c-able.ne.jp/~matinoek/）

（３）店頭及び館内に情報コーナー設置

店頭にパンフレットスタンドを置き、福祉や商店街に関する情報を提供し、館内にイベント情報等を掲示しました。

また、「おもしろ雑学」やピックアップ情報等も店頭に掲示し、立ち止まる人の増加を目指すとともに、外での交流を図ったり、館内への誘導を心掛けたりしました。

（４）情報誌の発行

〇まちのえきだより（月１回　各４２０部）

〇フリーマーケット手書きレター（月１回　各４００部）

（５）情報誌の発送

希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました（登録９名）。

（６）ツイッターでの発信

利用される方から聞いた情報やまち歩きから得た情報などを発信しました。
https://twitter.com/machinoeki

５　移動機器の貸出

〇貸出日時　施設開館日の１０：００～１６：００

〇貸出状況

・車いす８回　・シルバーカー３回　・ベビーカー３回

６　そ　の　他

〇イベント時の夜間特別開館

・山口祇園祭（７／２０、２７）

・山口七夕ちょうちんまつり（８／６、７）

〇山口市「赤ちゃんの駅」に参加

・４月１日～３月３１日

〇「クールシェアやまぐち」及び「ウォームシェアやまぐち」に参加

・７月１日～９月３０日　・１２月１日～２月２９日

〇感染症拡大防止のため臨時休館

・３月５日～３月２６日

＜令和元年度（平成31年度）＞　ほっとさろん中市「まちのえき」 利用状況

（単位：人）

		開館日	利用者数	1日平均	イベント等	まちの保健室	1日平均	タウンモビリティ		
								車いす	シルバーカー	ベビーカー
平成15年度		290	14,081	49	389	3,630	13	29	―	―
平成16年度		303	11,886	39	541	3,788	13	44	―	―
平成17年度		304.5	14,749	48	640	5,165	17	53	―	30
平成18年度		304	18,115	60	1,875	6,340	21	42	―	174
平成19年度		268	14,776	55	2,386	4,946	18	30	―	128
平成20年度		266.5	14,019	53	1,849	4,759	18	41	―	154
平成21年度		265	14,778	56	2,137	5,268	20	81	6	67
平成22年度		267	14,536	54	1,812	5,624	21	39	9	34
平成23年度		267	17,234	65	1,487	5,562	21	42	9	41
平成24年度		267	18,425	69	1,684	6,657	25	25	26	31
平成25年度		267	21,759	81	2,262	6,498	24	32	29	32
平成26年度		268	23,592	88	2,769	5,829	22	20	31	34
平成27年度		264	23,869	90	2,565	5,153	21	13	29	30
平成28年度		267	20,275	76	2,577	4,705	19	11	16	22
平成29年度		265	19,693	74	2,629	3,683	15	11	11	11
平成30年度		239	17,694	74	2,642	3,547	16	6	6	4
令和元年度（平成31年度）	4月	20	1,595	80	213	307	16	2	0	1
	5月	18	1,449	81	253	278	16	0	0	0
	6月	21	1,607	77	264	345	17	0	0	0
	7月	21	1,642	78	207	329	16	2	0	1
	8月	21	1,510	72	137	314	17	1	0	1
	9月	19	1,618	85	271	311	17	0	0	0
	10月	20	1,763	88	235	319	17	0	0	0
	11月	20	1,600	80	274	294	15	0	1	0
	12月	20	1,436	72	245	280	15	1	1	0
	1月	19	1,330	70	223	271	15	0	0	0
	2月	19	1,285	68	213	272	15	1	1	0
	3月	6	341	57	－	77	13	1	0	0
	計	224	17,176	77	2,535	3,397	16	8	3	3
合　計		4596.0	296,657	65	32,779	84,551	19	527	175	795

■こども明日花プロジェクト　事業報告■

1　経過・内容

「こどもの貧困問題」の解決に向けて、平成２８年５月１４日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」は活動４事業年度を迎え、引き続き、多くの支援者の皆様やボランティアの皆さんに支えていただき、事業に取り組むことができました。

特に、地域で子どもたちを見守り、支える仕組みとして、取り組んでいる「こども食堂」について、山口県から「こども食堂サポート事業」を受託、県内のこども食堂の普及促進を担う、中間支援として役割を果たすべく、取り組みました。また、一昨年（平成 30 年）5 月に開催した「こども食堂全国ツアー」に続き、社会活動家の湯浅誠さんを講師に迎え、県内で子どもの支援に取り組む、様々な団体や個人、行政、企業の皆さんが一堂に会する「山口こども応援ミーティング 2019」を開催し、意見交換などを通じて新たな出会い、つながりができ、その後の活動の広がりに結び付けることができました。

また、11 月には「企業の社会貢献」をテーマに活動 3 周年記念講演会を開催し、こども明日花プロジェクトが当初から掲げる、寄付等による活動継続への協力を呼び掛けました。

年度末には、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校の一斉休校により、学習会、居場所、こども食堂など、開催できなくなりましたが、一部世帯への食事提供など支援を行いました。1 日も早く収束し、以前のように、活動できる日が来ることを祈るばかりです。

山口市内にとどまらず、県全体の子どもの貧困対策など、困難を抱える子どもたちへの支援活動が広がるよう、取組を進めました。

■ビ ジ ョ ン：どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に
希望を持てる社会を実現する
■ミッション：１．子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの機会を提供する
２．身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる
■事 業 内 容：「学習支援」無料学習会（食事付き）、施設等へのボランティア派遣
・「生活支援」食事支援（こども食堂）、食品等の配布など
・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
・普及啓発・人材育成、地域の包括支援の体制づくり

2　事業内容

（1）学習支援

① 無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内 5 カ所で実施。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	H31.4.13～R2.2.29	41 回	154 人	129 人	111 人	240 人
平川	H31.4.13～R2.2.29	38 回	323 人	169 人	113 人	282 人
小郡	H31.4.13～R2.2.29	37 回	157 人	117 人	38 人	155 人
大内	H31.4.13～R2.2.29.	37 回	160 人	97 人	62 人	159 人
宮野	H31.4.13～R2.2.29	26 回	170 人	107 人	58 人	165 人
	計	189 回	964 人	619 人	382 人	1,000 人

＜取組・課題・成果＞
・開始から４年目となり、高校進学に向けた学力向上を目的に、各会場でマネージャー（管理者）による運営が定着し、子どもたちも熱心に取り組んだ。
・年間を通して 75 人が登録し、年度末時点で継続している生徒が 65 人（一部小学生を含む)。3 年生は 21 人おり、例年どおり受験対策も行った。3 月は開催できず、受験の結果確認できた 11 人は公立・市立に合格した。
・会場別では、平川が多く、他の 4 カ所は 5～6 人ほどで、もっと増やしたい。
・元年度から白石→湯田、小郡地域交流センター→ジャガランダハウスに変更
・保護者アンケートによると、学習習慣が付く、ボランティアが優しい、昼食付きはとても助かる、など好評であった。

② 施設への派遣（児童養護施設）
入所している児童・生徒の学習補助ボランティアを派遣。

派遣先	期間	回数	学習ボランティア	備考
吉敷愛児園	H31.4～R2.2	33 回	34 人	その他送迎ボランティア

（２）居場所づくり事業（山口市委託事業）
主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの居場所づくりモデル事業」を受託、毎週土曜（午後３～７時半)、小中学生への学習支援と食事支援（夕食）実施。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	H31.4.13～R2.2.29	40 回	244 人	245 人	103 人	348 人

＜取組・課題・成果＞
・29 年 7 月から「なのはなハウス（プロジェクト事務局)」を居場所づくりの場所として利用、30 年 4 月から対象をひとり親世帯と、特に対応が必要な家庭に限定しており、子どもへの見守りや保護者との交流を通じて、事情を把握しており、今回の一斉休校に伴い、支援が必要な世帯に迅速におむすび配達や宅食等を提供することができ、喜ばれた。
・今後も、関係機関との連携により、より支援が必要な子どもたちの受け皿となることを目指していく（拠点の増設を含めて)。

（３）ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）
ひとり親世帯の保護者グループ.style（ドットスタイル)、山口県母子・父子福祉センターとの共催により、当事者同士が支援に関する情報の共有、意見交換、またリフレッシュできる内容で交流を図った。

① 4 月 21 日　ゆるりカフェ会（3 人）
② 6 月 16 日　法律のはなし（牛見弁護士）9 人
③ 8 月 18 日　子育てと発達のはなし（県立大藤田教授）6 人
④ 10 月 20 日　私と子どもの心のはなし（県立大大石教授）5 人
⑤ 12 月 15 日　ゆるり茶話会とネイルケア（ネイリスト）8 人
⑥ 2 月 16 日　身近なお金のはなし（シングルママ・ＦＰ）4 人

（４）情報発信

① フェイスブック　平成 28 年４月開設

② ホームページ　　平成 29 年 1 月開設、ブログ掲載

③ ニュースレター　年 4 回平成発行　31 年春・夏・秋、令和元年新年

④ 地域情報新聞ほっぷ　平成 28 年 2 月から、毎月 1 回告知記事を無料掲載

⑤ 平成 30 年度活動報告 1,000 部発行　関係各所に配布

（５）報道

①新聞

５月１５日（月）宇部日報「山口こども応援ミーティング 2019」

９月１２日（月）宇部日報「こども食堂開設セミナー（山陽小野田市）」

②テレビ

９月１７日（火）山口県こども食堂推進会議

１０月１４日（日）山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク発足式

（６）普及啓発

①「子どもの問題」啓発セミナー

困難を抱える子どもたちに支援を届けるには、学校・教育委員会との連携は不可欠であるが、いわゆる「学校の壁（個人情報、公平性など）」があり、現実には難しい面もあるため、滋賀県大津市でスクールソーシャルワーカーとして活動し、全国で講演活動を行っている、幸重忠孝さんを講師に迎え、「教育と福祉の連携を強化する研修会」を宇部市、山口市、周南市で開催。教育委員会職員や教員も参加し、大変有意義であったが、参加者がまだ少ないので、継続実施し、理解を深めていく。

参加者数：8/5 宇部市１３人、8/2 周南市８人、山口市１２人（計３３人）

②「山口こども応援ミーティング 2019」（令和元年 5 月山口県立大学）

平成 30 年５月、「こども食堂全国ツアー」に続いて、社会活動家　湯浅誠さんによる基調講演と、分科会は第 1 セッション「事業別」として、①学習支援、子どもの居場所づくり、②こども食堂、③フードバンク、第 2 セッション「実施主体別」で、①自治体・教育機関、②企業・民間団体（ＮＰＯなど）、③社会福祉法人・社会福祉協議会、として、事例紹介と意見交換を行いました。

全体で 120 人の参加があり、湯浅誠さんの講演はわかりやすく、特にこども食堂の役割と今後の普及促進について話された。3 つの分科会を第 1、第 2 セッションとして、様々な視点での意見交換はとても意義深く、新しい交流も生まれたが、参加者な内容豊富で、時間が足りない、という声も多く、次年度の工夫が必要と思われたが、県内の関係者が一堂に会することは、今後の支援拡大に繋がると確信した。

（７）研修事業

周南市次世代支援課から、30 年度に続き、担い手育成研修を委託され、前期研修 3 か所、職員研修 1 回を実施した（総まとめのスキルアップ研修は、NPO 法人山科醍醐こどものひろば理事長村井拓哉氏を講師とし、2 月 29 日に予定したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、周南市が中止とした）。

① 前期研修　参加者のべ 66 人　※時間は何れも 13:30～16:30（3 時間）徳山以外

内容：周南市の取組状況（次世代支援課）、取組事例（講師）、意見交換

地区	日時	会場	講師
中央（徳山）	11 月 13 日（水）18:00	周南市役所シビック交流センター	NPO 法人チャイルド・ケアセンター（大野城市）理事長　大谷清美
東部	10 月 12 日	ゆめプラザ熊毛	山口市宮野地区社協会長　柴田　朗

（熊毛）	（土）13:30		こども食堂ベストフレンズ小川房枝
西部 （富田）	10 月 5 日 （土）13:30	学び・交流プラザ	一般財団法人こどもサポート財団 事務局長　小谷公仁子

② スキルアップ研修　新型コロナウイルス感染拡大による中止

2 月 29 日（土）基調講演：NPO 法人山科醍醐こどものひろば理事長村井拓哉氏

③ 職員研修　参加者　100 人

対象	日時	会場	基調説明　講師
管理職・ 一般職員	１月２５日 （金）13:30	周南市役所 多目的室	北九州市役所こども家庭局子育て支援課 子ども食堂担当係長　長迫和彦

（８）人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手（ヤングワーカー）」を育成するため、問題解決に必要な専門的知識を得るために、学生委員会を中心に講師を選んだ。自ら考え、自ら行動する人材を育成する「あすはなカレッジ」を開催し、大学生を中心に 15 人の申込があり、参加者はのべ 60 人。企画運営は、学生ボランティアの有志による学生委員会が担当した。

＜講師・日程・会場＞　　各２時間

No	開催日時	講　　師
1	2 月 22 日(土)13:00	社会福祉法人はるか理事長　河村宏司
2	23 日(日)10:00	スクールソーシャクワーカー　中村幸一郎
3	23 日(日)13:00	山口学芸大学講師　御旅屋達
4	24 日(祝)10:00	ネムハイスクール代表　岸和田竜男

※会場：なのはなハウス

※スタディーツアーは、新型コロナのため中止

（９）こども食堂・地域食堂プロジェクト

〇こども食堂

平成 30 年度山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業により、平成 30 年 12 月から山口市内３地域で子ども食堂開設し、継続して実施した。

回を追う毎に、参加者やボランティアも増えて、定着したが、新型コロナウイルスの影響で市施設が閉鎖されたため、令和２年３月は開催できなかった。

① 大内みんな元気食堂（計１１回）　大内地域交流センター　食事 11:30～13:00

② 小郡みんな食堂（計１２回）　小郡ふれあいセンター、地域交流センター

③ えがお食堂よしき（計１１回）　吉敷地域交流センター

＜開催状況＞　※参加無料、誰でも参加可能

地域	開催回数	献立	利用者数	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	合計
大内	１１回	大内地域交流センター	1,329 人	119 人	1,448 人
小郡	１２回	小郡ふれあいセンター	1,900 人	276 人	2,176 人
吉敷	１１回	吉敷地域交流センター	2,656 人	305 人	2,961 人
合計	３４回		5,885 人	700 人	6,585 人

〇小郡中「学校朝ごはん」

学校保健調査によると、生徒の 1 割が「朝食を食べてこない」、さらにその 15%が「用意されていない」と回答している。中学校は授業の時間割で、給食は午後 1 時頃であり、朝食を食べずに空腹

のままでは、授業に集中できず、寝てしまうなど、学力向上に影響があると考えられる。さらに、成長期に十分に栄養が摂取できなければ、心身ともに影響があることから、小郡中校長に「学校朝ごはん」を提案し、令和元年 6 月から毎週水曜の「朝ごはん」を提供し、1 回当たり 10 人ほどの生徒が利用した。

食材料として、山口県パン工業協同組合から５万円分のパン（1 回 5,000 円分：パン 40 個）の寄付を受けて、お米のご飯と交互に提供した（10 回分）。また、午前 6 時 30 分調理開始に、毎回参加していただいているボランティアに支えていただいている。

実績：令和元年 6 月 5 日（水）から 2 年 2 月 26 日（水）まで 29 回開催（3 月は）。

利用生徒数 279 人、教職員 109、ボランティア 131 人

※県内の学校に「学校朝ごはん」を広げるために、令和 2 年度「キユーピーたまごみらい応急基金」を申請、採択された。今後、関係者と事業調整を行う。

〇新型コロナ緊急支援

一斉休校などにより、こども食堂も開催されない中、困っている世帯におむすびや、宅食を行っている。小郡中では朝ごはんの代わりに、昼食パンを提供している。

（１０）こども食堂サポート事業（山口県委託事業）

こども食堂が地域の子どもたちの居場所の一つとしての役割が期待され、また地域において多世代が交流する機能についても注目される「こども食堂」を県としても普及促進に取り組み、知事が「３年後に 100 カ所」にすることを掲げて、元年度から「こども食堂サポート事業」を開始して、受託し、中間支援機関として「山口県こども食堂支援センター」を掲げて、こども食堂の運営や新規開設についての相談対応や支援を行った。元年 10 月には、知事が出席して、県のこども食堂のネットワーク組織も発足し、その際、知事名での「山口県こども食堂応援宣言」が出された。

開設セミナーやホームページの開設（マップの作成）、開設の手引きやニュースレターを作成した。また県が「こども食堂登録制度」を創設し、地元保健所等との連携の仕組みをつくった。そのしたことにより、委託当初、こども食堂・子どもの居場所は 40 ほどだったが年度末には 60 カ所に増えている。

（１１）トワイライト事業（キリン福祉財団助成事業）新規

こどもの居場所づくりに参加する子どもの中でも、より細かいケアが必要と考えられる子どもを１人、あるいは２人に対して、複数のボランティアが関わり、遊んだり、買物、入浴、食事などを一緒にして、手厚い支援を行った。このトワイライト事業は大津市や倉敷市の先進団体が取り組み、成果をあげていることから、試験的に実施し、プログラムの内容については学生ボランティアの意見に沿って決めていった。

月に２回、子ども（２組）にとっては月 1 回ではあったが、表情が緩み、会話が増えるなどの様子が見られ、参加ボランティアにとっても、関わりが深くなるだけ、変化に気づき、成果を実感する機会となるなど、好評であることから、今後も継続して実施し、ノウハウを蓄積していくこととしている。

（１２）資金調達

①助成金等申請

・福祉医療機構「令和元年度ＷＡＭ助成」＜採択＞

・日本財団（令和元年度通常募集：ＳＳＷ活用学校ごはん配布事業＜不採択＞）

・国立青少年教育振興機構（子どもゆめ基金）＜採択＞

・やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業＜採択＞

・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ型募金：４期）＜採択＞
・西京教育文化振興財団＜採択＞
②子どもの未来応援企業（３社）
H28（株）池田建設、サン・ロード（株）
H29（株）ＴＡＭＡＲＵ
③募金箱（50 ヶ所）
④寄附付自動販売機（４台）　※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）
H28 サン・ロード（株）、防長苑
H29 マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

（１３）その他

①講演等・説明　　18 回　657 人

時期	対象・名称	場所	人数
H31.4/15	山口市ボランティア連絡協議会	山口市（セミナーパーク）	80 人
R1.　7/8	山口県市町社協事務局長会議（協力要請）	山口市（社会福祉会館）	30 人
8/5･6	教育と福祉の連携を進める研修会	宇部市、周南市、山口市	40 人
8/19	大殿地区人権学習推進協議会（講演）	山口市（大殿地域交流センター）	30 人
9/17	第１回山口県こども食堂推進会議	山口市（県庁）	30 人
9/24	山口県央ロータリークラブ例会（卓話）	山口市(山口グランドホテル)	30 人
10/5	周南市地域の担い手育成研修（前期３回）	周南市	40 人
10/14	山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク発足式	山口市（防長青年館）	80 人
11/7	こども明日花プロジェクト３周年記念講演会	山口市（防長青年館）	40 人
11/21	周南地区高等学校人権教育担当者協議会（研修）	光市（光丘高校）	25 人
11/30	中国四国こども食堂・子どもの居場所ネットワーク研修会	尾道市	20 人
12/1	朝日新聞厚生文化事業団「こどもの未来」中四国ブロック大会	尾道市	100 人
12/12	第２回山口県こども食堂推進会議	山口市（県庁）	30 人
R2.2/5	山口中央ライオンズクラブ例会（講演）	山口市（山口グランドホテル）	25 人
2/14	本願寺山口別院映画「こども食堂にて」上映会・講演	山口市（本願寺山口別院）	40 人
2/19	浄土真宗美祢東組研修会（講演）	美祢市大田（光明寺）	25 人
3/19	令和２年度山口県こども食堂サポート事業プロポーザル・ヒアリング	山口市（県庁）	7 人

②会議等（山口市こども家庭課）

時期	対象・名称	場所	人数
R01.11/7	山口市　居場所づくり意見交換会	山口市保健センター	10 人

〔参考〕主な活動

Ｈ３１年４月１５日　山口市ボランティア連絡協議会（こども食堂講演）
４月１９日　山口県共同募金会「赤い羽根テーマ型募金」助成交付式
４月２０日　池田建設新入社員研修受け入れ（なのはなクラブ）
４月２３日　キリン福祉財団助成金交付式（さぽらんて）
４月２４日　山口県こども食堂サポート事業プロポーザル・ヒアリング
５月１２日　山口こども応援ミーティング 2019（山口県立大 120 人参加）
５月３１日　山口南ロータリークラブ例会（マリーゴールド）
６月　５日　小郡中「学校朝ごはん」スタート（毎週水曜、朝）
６月１３日　山口県遊技業協同組合祝賀会（寄付金受領）
６月２９日、３０日　こども食堂開設セミナー（防府市、萩市）
７月　４日　山口県子ども子育て応援ファンド事業助成決定通知交付式（県庁）
７月　６日　ボランティア説明会（なのはなハウス）
７月　７日　山口朝日新聞販売店会寄付贈呈式
７月１４日　ボランティア交流会 in なのはな
７月２９日　野田学園、中村学園（高校生ボランティア協力要請）
８月　５日、６日教育と福祉の連携を進める研修（宇部市）（周南市、山口市）
８月１９日　大殿地区人権学習推進協基金協議会（大殿地域交流センター）
８月２３日　九州・沖縄のこども食堂をつなぐ研修会（佐賀市）
８月２４日　愛は地球を救う！２４時間テレビ生中継（小郡みんな食堂）
９月　１日　なのはなカフェ（高校生対象）スタート
９月１０日、１１日　こども食堂開設セミナー（光市、山陽小野田市）
９月１７日　第１回こども食堂推進会議（受託事業、県庁）
９月２４日　山口県央ロータリークラブ卓話（山口グランドホテル）
１０月　５日、１２日、１１月１３日　周南市地域の担い手育成研修(前期３回)
１０月１４日　山口県こども食堂・こどもの居場所づくりネットワーク発足式
１０月２７日　こども夢基金助成「リンゴ狩り体験交流ツアー」40 名
１１月　７日　山口市居場所づくり情報交換会（山口市子育て保健課）
１１月　７日　３周年記念講演会「企業の社会貢献」（防長青年館）
１１月１５日　立正佼成会山口教会「教祖様聖誕会」寄付金贈呈式（200 人）
１１月２０日　周南地域高等学校人権教育研修(光丘高校 20 人)
１１月２７日　山口市こども食堂連絡会議(白石地域交流センター30 人)
１１月３０日　中国四国こども食堂・こどもの居場所ネットワーク研修会（尾道市）
１１月３０日　３周年記念度ネーションパーティー（山口市小郡　和音）
１２月　１日　朝日新聞厚生文化事業団「子どもの未来中四国ブロック大会」（尾道市）
１２月１２日　第２回こども食堂推進会議（受託事業、県庁）
１２月２０日　「赤い羽根テーマ型募金」活動団体認定式（山口県共同募金会）
令和２年１月　「赤い羽根テーマ型募金（２年度）」募集開始（～３月末）
１月２４日　周南市職員研修会（北九州市こども食堂担当係長）100 人
２月　１日　全国こども食堂支援センターむすびえ「全国研修会」参加（同 80 人）
２月　２日　全国こども食堂サミット 2020 参加（東京都　200 人）

２月　５日　山口中央ライオンズクラブ例会卓話（山口グランドホテル）
２月１４日　本願寺山口別院　映画「こども食堂にて」上映会
２月１５日　県こども食堂ネットワーク児童虐待対応研修会（南総合センター）
２月１９日　西本願寺派美祢東組　ご同胞研修会（美祢市美東町大田）
２月２３日、２４日　九州・沖縄のこども食堂をつなぐ研修会（北九州市）
２月２９日　県こども食堂ネットワーク食品衛生研修会（南総合センター）
３月２１日～２３日　若き担い手（ヤングワーカー）養成研修「あすはなカレッジ」
３月３１日　山口市「居場所づくり事業」元年度事業終了、実績報告提出